研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-137		17-329	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Alcohol and older people: A systematic review of barriers, facilitators and context of drinking in older people and implications for intervention design.
高齢者の飲酒：高齢者の飲酒の障碍になるもの、促進するもの、飲酒の状況の系統的レビューと介入デザインの意味づけ。

執筆者

Kelly S, Olanrewaju O, Cowan A, Brayne C, Lafortune L.

掲載誌

PLoS One. 2018 Jan 25;13(1):e0191189. doi: 10.1371/journal.pone.0191189.

キーワード	PMID:
高齢者　社会的関与　健康リスク	29370214

要　旨

背景：
老人における有害なアルコール消費は増加しており、この社会的懸念を理解し、対処する有効な方法が必要である。
方法：
高齢者（55歳以上）において、飲酒の障碍と促進するものの質的系統的レビューを行う。複数のデータベース（MEDLINE、EMBASE、PsycINFO、CINAHL、CENTRAL、Social Sciences Citation Index、York Centre Reviews and Dissemination、Cochrane database, grey literature）から英語文献で2000年から2017年2月までのOECD諸国からの論文でMeSH条件とテキスト語を使用しアルコールと高齢と結合させて検索した。研究の質は、NICEの方法を使用して評価された。レビューは、PRISMAによって報告される。
結果：
老人における飲酒は強く社会的関与と関連があり、アルコールの健康リスクに関する懐疑論がある。飲酒は、困難性（例えば社会的隔離、疾患または死別反応）にもリンクされた。アルコールは、ルーチンとしても、アイデンティティにも関連がありえる。しかしながら、賢明に飲む老人の人生経験が有効でありえたと強調することが助けになり、老人は自分自身の飲酒をしばしば管理する。
結論：
効果的であるために、社会的アプローチは有害な飲酒のためにリスクの脈絡を考慮する必要がある。証拠は、飲酒に伴う社会的参加が認知的健康をもたらす潜在的利益はどんな方針進展ででも考慮されなければならない。老人でアルコール摂取を減らす方法は逆説的な有害性を回避する必要がある。Aアルコールを飲む有害性を低下させるアプローチが必要であると同時に、アルコールが社会化させる利点を保持させなければならない。